



## 地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れした事例の紹介（第52回）

### ～ リフレッシュ～

先日担当ケアマネジャーから入院のご相談を頂戴しました。患者さんは90歳代女性、実の娘様が主介護者となり、日々の介護を担っておられるのですが、介護にかなりお疲れとのことで、緊急避難的に受け入れをしてほしいとのことでした。本来であれば、介護者負担軽減のため、デイサービスやショートステイなどの介護サービスが導入できれば良いのですが、ご本人が「どうしても行きたくない！」とおっしゃられていたため、訪問系のサービスを週に数回のみ利用にとどまっていたとのことでした。

ケアマネジャーから情報収集（基礎疾患、投薬内容、ADL、認知症の有無と程度、ご家族の意向など）したのち、脳神経内科の大島部長と吉崎看護師長に相談し、主介護者の娘様のリフレッシュと退院後の介護サービスを調整することを目的として、翌々日から受け入れさせて頂くことになりました（入院期間は約2週間の予定です）。

もともとデイサービスやショートステイの利用に消極的であったため、入院生活に馴染めるかどうか心配していたのですが、病棟看護師やリハビリ科のセラピスト、中野SWなどの関わりにより、入院生活中は比較的落ち着いておられます。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

## 入院患者さんへのご面会などについて

### ～ 引き続きご協力をお願い～

## 感染症拡大防止に ご協力ください



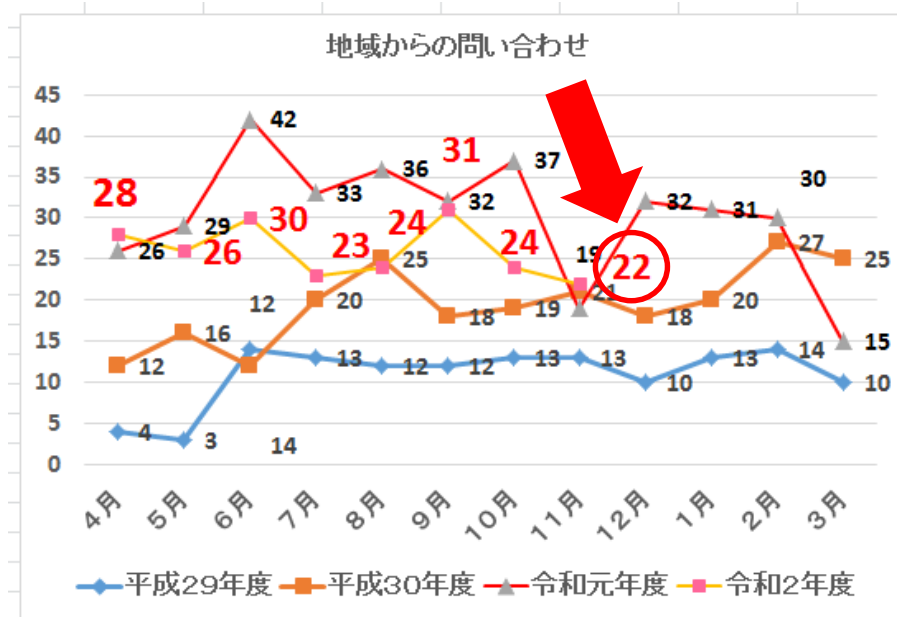
感染拡大防止の観点から、ご家族や地域の関係機関の皆様による入院患者さんへのご面会は**原則禁止**とさせて頂いています。なお、退院に向けたカンファレンスは必要に応じて開催させて頂いていますので、担当ソーシャルワーカーまでおたずね下さい。その際、**少人数で参加（1～2名程度）して頂く**と共に、カンファレンス終了後の**長時間**

の院内滞在は**ご遠慮下さい**。ご不便をおかけしますが、引き続きご協力頂きますようお願い申し上げます。メールのやり取りも可能ですので、ご活用下さい。

地域医療連携室のメールアドレス：[ti0001@yamashiro-hp.jp](mailto:ti0001@yamashiro-hp.jp)

## 令和2年11月の問い合わせの報告

令和2年11月は、22件の問い合わせを頂戴しました。引き続き、迅速にお受け入れできよう努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



## 地域医療連携室より

～ 令和2年も大変お世話になりました～



令和2年も地域の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。これまで、地域包括ケア病棟“彩り”では、様々な活動をしてきましたが、令和2年は、新型コロナウイルスにより、様々な活動が制限されました。具体的には、ご家族の面会禁止や傾聴ボランティアうさぎさんの活動、地域ニーズ把握のために実施していた地域の皆様のところへの訪問活動などです。そ

して、活動の制限は、入院患者さんのQOL低下や、“地域からの受け入れ”という地域包括ケアシステムの中での役割の後退につながるんじゃないかと懸念しました。しかし、例えば、昼食前に実施している集団体操は、間隔を空け、かつ対面にならないように椅子を並べたり、デイルームのテーブルにはパーテーションを設置したり、レクリエーションの時間を少し短くしたりなど、地域包括ケア病棟“彩り”に関わるスタッフ各々が、患者さんに安心して入院生活を送って頂ける工夫したことで、結果的には入院患者さんのQOLの維持や地域からの受け入れの継続につながっています。

お陰様で、地域包括ケア病棟“彩り”は、地域の皆様に知って頂き、日々入院のご依頼を頂戴しています。医療ニーズが高い患者さんから介護ニーズが高い患者さんまで、可能な限り、多くの患者さんを受け入れさせて頂き、引き続き、地域の皆様のお役に立てればと思っています。令和3年もよろしくお願いいたします。(地域医療連携室 室長 南出 弦)